

## 添付書類① 団体概要

団 体 名: saveMLAK(せーぶ・えむ・える・えー・けー／せーぶ・むらつく)

連 絡 先: 〒231-0012 神奈川県横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 2F さくら WORKS<  
関内> アカデミック・リソース・ガイド株式会社 内

発足年月日: 2011 年 4 月 11 日 ※前身の一つ、savelibrary は 2011 年 3 月 12 日発足

### 主な活動:

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を受け始まった savelibrary(3 月 12 日発足)、savemuseum(3 月 13 日発足)、savearchives(3 月 13 日発足)、savekominkan(3 月 16 日発足)を発展的に統合し、4 月 11 日に正式発足。東日本大震災で被災した博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災状況と救援状況を集約・共有するウェブサイト saveMLAK <<http://savemlak.jp/>> 提供による情報支援を展開している。

同時に、宮城県の名取市や南三陸町等を中心とした図書館再建の支援活動や石巻市立大原小学校の学校図書館の復旧活動、東北大学附属図書館への専門的ボランティア(プロボノ)の派遣仲介、南三陸町の志津川ネイチャーセンターの再興計画の立案支援等を実施。

また、ハーバード大学ライシャワー日本研究所やインターネットアーカイブ財団との国際連携に基づく支援活動も展開。

その他、日本図書館協会や国立国会図書館、文部科学省等の MLAK 関係の業界団体や関係官庁をはじめ、ヤフー株式会社、グーグル株式会社、楽天株式会社等の IT 企業との連携も実施。また、支援を受ける側である受援者サイドの機関との関係も構築している。

現在、MLAK 関係者に加え、企業関係者や研究者を加えた国内外の約 300 名が参画している。

### 参画者による主な発表:

相田芙美子:リレーエッセイ INFOSTA Forum(249)「繋ぎ、紡いでいくこと」, 情報の科学と技術, Vol. 61, No.9, 一般社団法人情報科学技術協会, 2011.

江草由佳. 高久雅生:saveMLAK ウィキサイトー博物館、図書館、文書館、公民館の震災関連情報, 漢字文献情報処理研究 No.12, 漢字文献情報処理研究会, 2011.

鏑木あずさ, 江草由佳, 山村真紀, 筒井弥生, 神代浩:「saveMLAKー博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報」における活動の経緯と展望, 現代の図書館 Vol.49, No.3, 日本図書館協会, 2011.

岡本真, saveMLAK の活動と課題、そして図書館への支援を巡って, 情報管理 Vol.54, No.10, 科学技術振興機構, 2012.

ほか、文献・発表・報道多数。

付属資料 1. ウェブサイト saveMLAK <<http://savemlak.jp/>>内「saveMLAK について」

付属資料 2. プロジェクト広報チラシ(2011.6)

以上